

編集後記

今号は足寄町立螺湾小学校特集になりました。螺湾小学校で看図アプローチ研究会を行ったことは「全国看図アプローチ研究会」ホームページでもニュースとしてお知らせしました。今号は、その日のプログラムの順番で論文が並んでいます。

第1論文は各学年1名ずつの児童からなる複式学級での授業づくりです。各学年1名ずつというのは複式学級の最小単位です。そういう条件の下で看図アプローチ授業を行うという得難い機会をいただきました。

第2論文の著者は森岡達昭です。森岡先生からは「全国看図アプローチ研究会」が「協同と創造の授業づくり研究会」という名称で、北海道ローカルで活動していた頃から力を貸していただいています。看図アプローチが「協同と創造」によって支えられているということがよく伝わってくる論文に仕上がっています。

第3論文は少し色味が変わった仕上がりになっています。タイトルのキーワードに「看護教育」が入っています。コンテンツにも、一見小学校教育とは関連のなさそうな「解剖生理学」が含まれていますが、これは螺湾小学校で行ったワークショップの内容です。このコンテンツが小学校の先生方の研修会でも受け入れられてもらえるのです。今回のワークショップでも、看図アプローチの汎用性の高さを証明する機会を与えてもらいました。

この論文ではワークショップの実施手順を、今までで一番丁寧にまとめてみました。看図アプローチ初心者でも本論文で紹介しているスライドどおりに展開していけるようにスモールステップでの情報提供をしています。論文末にも書きましたが、本研究会会員の皆様にはアニメーション付きのスライド一式とワークシートを無償提供させていただきます。ご希望がありましたらご遠慮なくお伝えください。

<表紙を読み解く>

昨年沖縄に行きました。その時空港でシマエナガグッズを見つけてびっくりしました。基本的に北海道にだけ生息するシマエナガが日本全国で人気になっていることがうれしくもありました。表紙のシマエナガで注目していただきたいのは、尾羽の矢印模様です。ネット上でもシマエナガの写真をたくさん検索できます。しかし、尾羽にフォーカスしたものはほとんど見かけません。私たちは今「看図アプローチのその先へ」を目指して看図アプローチ実践と研究を重ねています。「その方向で頑張るね」と尾羽の矢印で私たちを励ましてくれているシマエナガが今号表紙の主役です。今号は内容も表紙も執筆者も「北海道特集」になりました。いつもながらに絶妙な写真を撮ってきてくれる石田ゆき編集長に感謝です。

文責 鹿内信善

——— 全国看図アプローチ研究会研究誌 27 号 ———

発行年月日 2026年2月14日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員会

石田 ゆき

伊藤 公紀

溝上 広樹

織田 千賀子

鹿内 信善*

山下 雅佳実

渡辺 聡

(*印は編集代表)



発 行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP・表紙デザイン 石田ゆき